

# 関川の流域図

関川は、妙高市にある焼山（2,400m）から上越市までを流れる約64kmの大川です。このうち人口や資産が集中する河口から12.2km（保倉川の1.6kmを含む）を国（高田河川国道事務所）が整備・管理を行っています。



国（高田河川国道事務所）が  
 整備・管理を行っている区間  
 （12.2km）

げんりゅう  
**【源流】**  
 関川の始まりは  
 焼山(やけやま)  
 2,400mです。

なが  
**【長さ】**  
 関川の長さは約  
 64kmです。長野  
 県境、妙高市、上  
 越市を流れます。

りゅういき  
**【流域】**  
 関川は、1,140平方キロ  
 メートルの範囲に降った  
 雨を集めます。この範囲  
 には約21万人が住んでい  
 ます。

# 関川での洪水による浸水被害

●昭和40年 9月 台風24号



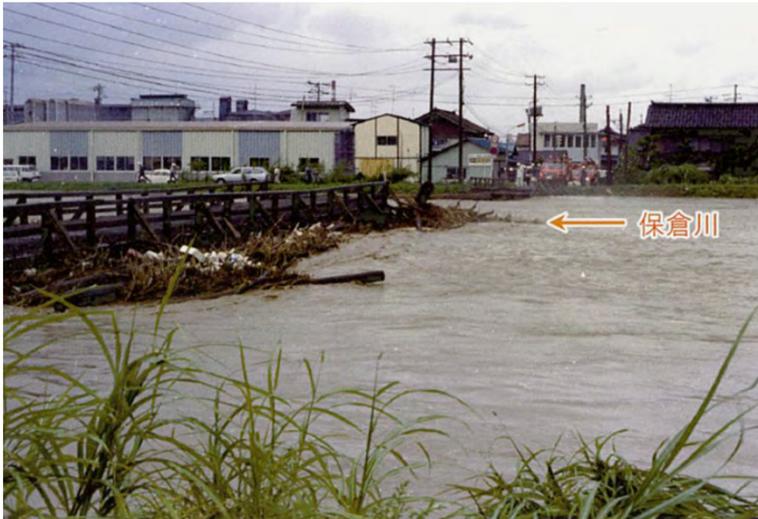
上越市中央1丁目

●昭和44年 8月 豪雨及び台風7号



上越市藤巻～木田3丁目

●昭和56年 8月 台風15号



上越市佐内町（保倉川佐内橋）

●昭和57年 9月 台風18号



上越市木田3丁目

●昭和60年 7月 梅雨前線



上越市春日新田2丁目

●平成 7年 7月 梅雨前線



上越市福田町（テクノセンター付近）

# 関川の洪水と河川整備の歴史

## ●昭和40年 9月 台風24号

(被害：死者3名、全壊7戸、半壊床上浸水4,584戸、床下浸水1,434戸、浸水面積3,152ha)

## ●昭和44年 8月 豪雨及び台風7号

(被害：半壊床上浸水264戸、床下浸水978戸、浸水面積1,548ha)

## ■昭和44年 関川水系を一級河川指定、建設省 高田工事事務所が管理を開始

管理区間 関川0.0km～12.2km、保倉川0.0km～1.6km

・昭和48年から始まった堤防を引き川幅を広げる引堤事業により、平成13年までに約700戸の家屋移転が行われました。

## ●昭和56年 8月 台風15号

(被害：半壊床上浸水512戸、床下浸水538戸、浸水面積443ha)

## ●昭和57年 9月 台風18号

(被害：全壊5戸、半壊床上浸水2,738戸、床下浸水4,472戸、浸水面積717ha)

## ■昭和57年 関川（国管理区間）激甚災害対策特別緊急事業（関川3.6km～10.0km）

・関川本川堤防の左岸8か所、右岸4か所の合計1,435mから水があふれたため、堤防の設置や河道内の土砂を掘削する等、洪水によるはん濫を防ぐための対策が行われました。

## ●昭和60年 7月 梅雨前線

(被害：床上浸水302戸、床下浸水2,171戸、浸水面積2,699ha)

## ■昭和60年 保倉川（国管理区間）激甚災害対策特別緊急事業（保倉川0.0km～1.3km）

・保倉川左岸の175m、右岸1,300mから水があふれたため、堤防の設置や河道内の土砂を掘削、河岸が削られないよう護岸を設置する等、洪水によるはん濫を防ぐための対策が行われました。

## ■昭和63年 関川下流部激特関連改修特定緊急事業（関川0.0km～2.2km）

・堤防の設置や河道内の土砂を掘削する等、洪水によるはん濫を防ぐための対策が行われました。

## ●平成 7年 7月 梅雨前線

(被害：行方不明者1名、全半壊70戸、半壊床上浸水2,167戸、床下浸水2,620戸、浸水面積2,217ha)

## ■平成 7年 関川災害復旧助成事業（関川 12.2km～48.5km 新潟県28.9km、長野県7.4km）

・新潟県及び長野県により延長36.3kmの区間において、流路の直線化、川幅の拡大、河岸が削られないよう護岸を設置する等、洪水によるはん濫を防ぐための対策が行われました。

## ■平成 7年 保倉川・戸野目川（新潟県区間）激甚災害対策特別緊急事業

(保倉川 1.6km～5.9km、戸野目川 0.0km～3.26km)

・新潟県により、保倉川では上流に遊水池をつくり、一時的に河川外の影響がない場所へ洪水を溜め込むとともに、戸野目川では堤防の高さを高くしたり河道内の土砂を掘削し川の水が流れる空間を広げる等、洪水によるはん濫を防ぐための対策が行われました。

## 平成12年 高田城外堀に投雪された雪の融雪を促進させる施設として、消流雪施設が完成

## 平成14年 マリーナ上越開港

## 平成15年 国土交通省 高田河川国道事務所へ名称変更

# 関川の整備による浸水被害軽減効果

【昭和57年9月洪水】川幅を広げる前は洪水時に浸水被害が見られました。

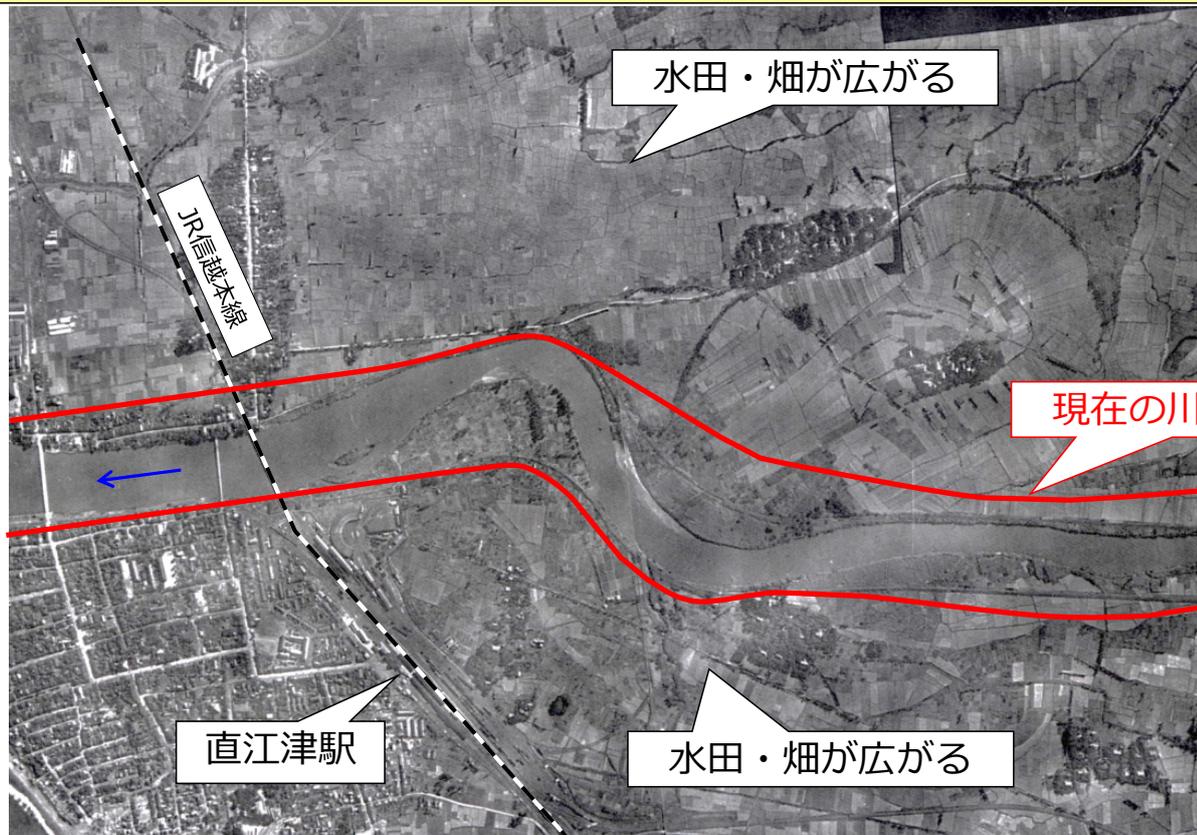


【平成7年7月洪水】河川整備により、既往最大（過去最大）の洪水流量であったにも関わらず浸水被害は見られませんでした。

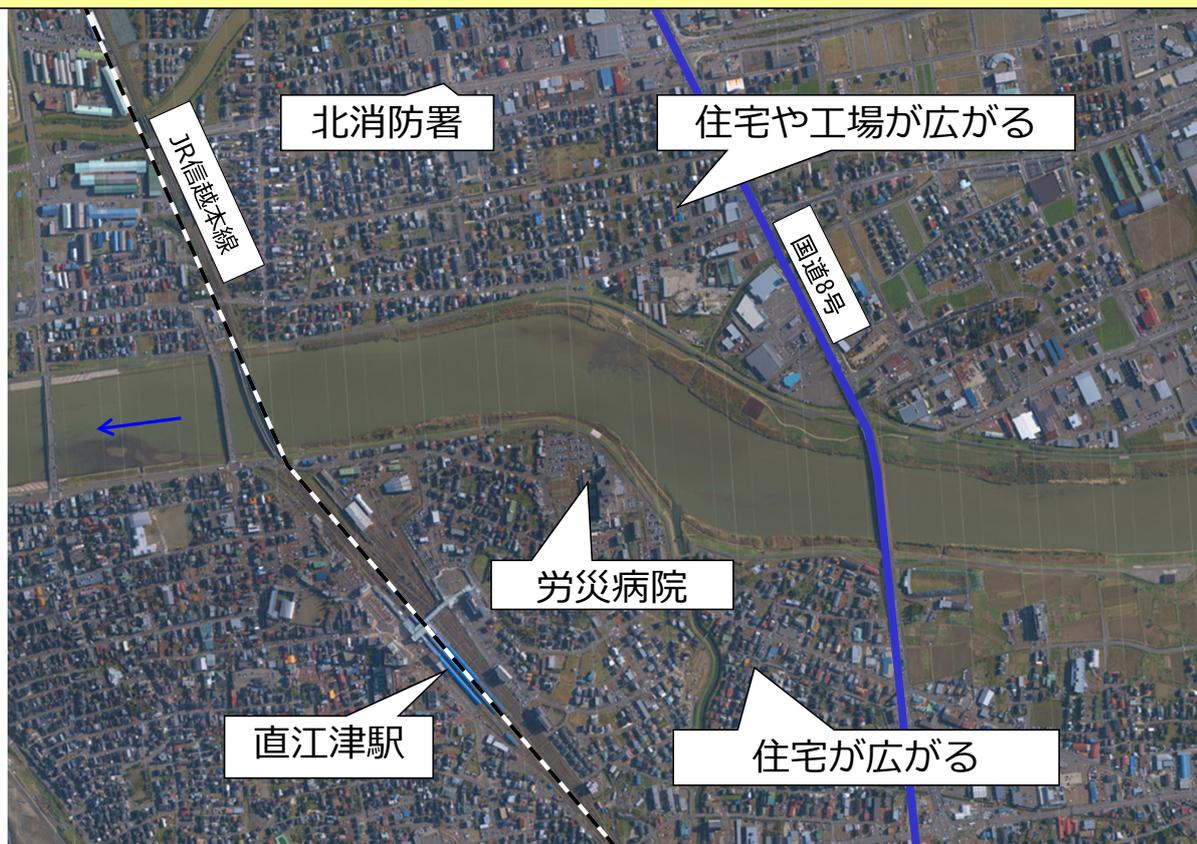


# 関川の整備による地域資産の拡大

【昭和21年(1946)】川幅を広げる前の状態。



【平成22年(2010)】川幅を広げまっすぐに近い形にしたことにより、洪水に対する安全度が高まったため、関川周辺には住宅や工場が広がりました。



# 関川と共にある豊かな暮らし



サケの遡上



コスモス畑（上越市塩屋新田）



アオサギ



堤防の桜（上越市三交）



みこしの川下り（上越市三交）



カヌー（上越市今池）

# 洪水被害を減らすための訓練の実施

高田河川国道事務所では、関川・姫川の洪水に備え、地元消防団や地域住民などが参加しての水防訓練を実施しています。また、排水ポンプ車や夜間活動を支援するための照明車も配備しています。



堤防が削れるのを防ぐためのシート張工



水が堤防を越えるのを防ぐ積み土のう工



堤防を強い流れから守るための木流し工



堤防からの漏水を弱める月の輪工



災害対策車両（照明車）



災害対策車両（排水ポンプ車）

# 関川にかかる橋の歴史（昔と今）

関川に架かる橋を昔と今で比べました。昔の橋は木材で造られています。今の橋は、川幅が広がったことにより長くなったため、強度が高いコンクリートや鉄材で造られています。

## 昔の橋

稲田橋（8.2k付近）大正3年



荒川橋（0.6k付近）大正元年



直江津橋（1.0k付近）昭和38年



## 今の橋

稲田橋（8.2k付近）平成19年



荒川橋（0.6k付近）平成19年



直江津橋（1.0k付近）平成19年



# 高田城の外堀となった関川の歴史

高田城を築城するにあたり、旧関川を城の「外堀」とするなど、川を巧みに利用する一方で、大規模な川の付け替え工事を実施し、城の防護を図ったと言われてています。



外堀 (旧関川)



外堀 (旧関川)

# 河川を健全に保つための維持管理

高田河川国道事務所では、堤防、護岸、樋門等の河川管理施設に異常がないか巡視点検し、川を健全に保つための維持管理を実施しています。また、地域の皆さんの協力を得て、河川の美化活動等も行っています。



堤防除草（ラジコン除草）



巡視点検①（河岸浸食確認）



施設点検①（樋門の定期確認）



施設点検②（護岸損傷確認）



出水時の点検



河川敷での小学生との花植え